

インターバンクの声（2016年7月28日）

昨日、東京市場の朝の時点では、翌日未明に発表される米連邦市場公開委員会（FOMC）の発表があるまでは、概ね緩やかな相場展開になると予想されていたが、政府の経済対策や日銀の追加金融緩和を巡る思惑から円相場が午後まで乱高下を続けた。朝9時を回って104円台の後半からじりじり105円台前半まで円売りになったのは、日経平均株価が堅調に始まったためだった。さらに正午過ぎに「政府の経済対策の規模が27～28兆円になる」「政府が50年国債の発行を検討している」などの報道が相次いで伝わり、円相場は1円以上も円売りが進み、一時106円50銭を上回った。その後、50年国債の発行を財務省が否定したとして再び105円台前半に戻したが、午後2時すぎに安倍首相が28兆円の経済対策を表明したことで106円台を再度回復した。ただ、何故か市場では金曜日の日銀が追加緩和には動かないのではとの思惑も広がり、105円台での値動きがFOMCの発表まで続くことになった。そしてニューヨーク市場の終盤近く、FOMCは予想通り現状維持となったが、声明が利上げをはっきり示唆するような“タカ派”的な内容とはならず、市場はやや円買いに反応している。日銀が追加緩和に動いてもそれほど円が売られないのではとの見方が強くなり始めているが、一応どうなるかわからない日銀会合なので、新たな値動きは明日の昼過ぎからだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。